



北海道中札内高等養護学校

# コミュニティ・スクール通信

中札内高等養護学校

CS(学校運営協議会)事務局

発行日:令和4年3月11日

## 第3回コミュニティ・スクール(学校運営協議会)開催

3月11日、今年度3回目の学校運営協議会が開催されました。

今回は、『3学年の進路先情報』と『学校評価』について情報共有を行いました。

本校のコミュニティ・スクールは、『中札内村で生活し働く人材の育成』という長期目標を掲げて今年度スタートいたしました。地域の皆様に学校が愛され、望ましい連携の形をお互いに考え、『進路支援体制の充実・発展』を進めていきたいと考えています。

## 今年度の進路動向

(進路部長)

「今年度の3年生は、企業への就職が6名、福祉事業所と雇用契約を結ぶ働き方であるA型が4名、2年間の就労訓練を経て一般就労を目指す移行支援が8名、じっくりと期間を設けず一般就労を目指すB型が10名、北広島にあります能力開発センターへの進学が1名、家事従事が1名、未定が4名となっております。例年に比べると、福祉的就労の割合が約7割と福祉的就労が多い状況となりました。

4月からは、現在の2年生の就労に向けての進路指導がすぐに始まります。

現在の2年生は比較的遠方で(足寄、上士幌、浦河、標茶など)、また地域に就労先がなくGHのある地域に出て就労先を探すケースが多くなりそうです。

現在の所、どうしてもGHの空きのある地域、そこからの就労という形になってしまいます。中札内村での雇用のお話は本当に色々な方面から声をかけていただいているのですが、どうしても現状として生活する場がありませんのでなかなか具体的に話を進める所まではいきにくい所があります。帯広からの通勤についても視野に入れて検討を進めていきます。

このような現状ではありますが、学校としては生徒が社会で役割を果たし活躍し続けることができる環境をなんとか多くの方とビジョンを共有し、お力を借りながら整え進路指導を進めていきたいと考えています。そして、その結果として中札内村での生活、中札内村での就労とつながるケースとなることを希望します。

(意見)「25年くらい前までは、下宿して働きに行くケースがあった。村内で下宿として生活の場を提供してくれる人がいるのではないかと。村内に下宿はないと思うが、募ってみるのもいいのではないかと。」

(意見)先日、浦河を訪問したが、高齢者が2階の空き部屋を貸し出しているケースがあり、福祉施設や医療ワーカーが支援しながら行っていた。

(意見)

- ・のぞみ園のGHは、現状では1名空きがあるはずだったが、6月から利用が決まっている。
- ・待機者も少なくなってきたおり、今後空きが出る可能性はある。

(質問)

- ・村の関係者から就労の声がかかっていると話があったがどんな業種なのか。

(進路部長)

- ・3、4か所。塗装業や菓子店、農家などから声をかけていただいている。
- ・南十勝に働く場所があり、働く意欲を持った生徒はいるが、やむなく違う地域にしているのが現状である。

## 学校評価について

(意見)

「先生方の評価も高いので、子供たちには伝わっているという数値だなと思う。」

「地域から見た評価も大切であると考え。発信方法についても村と連携しながら地域へ発信してみてはどうか。関わった人にも発信していただくこともいいと考える。」

(質問)「いじめなどの対応について、対応マニュアルはあるか。」

(教頭)

「学年、委員会などを設置して対応している。」

「今年、いじめの対応はなかったが、SNSなどのトラブルなどはあった。その場合は、特別に指導体制を組んで対応する。在学中に指導をしっかりとする必要があり、危機意識は職員間で共有している。」

---

## 次年度の体制について

(教頭)

「次年度、幕別分校も運営協議会を立ち上げることになった。2校が一つの運営協議会となるが、地域が違うのでそれぞれが部会という形で進めていきたい。次年度、規約などの改正を行う。」

---

## 校長挨拶

「進路については、村の方の就労が増えてきているが住むところの課題がある。来年度は総務課、福祉課との協議なども行いたい。ご意見いただいた下宿などの活用も含めて方向性を探っていきたい。」

また、数年先には住むところはあるが、就労先がないというケースも出てくる可能性もある。毎年、状況もかわってくると思うが、どうか御協力をいただきたい。

前回の会議の際に来てもらったN君も無事にGH中札内に入居しながら六花の森工場で働き、村民として生活することになる。皆さんの力を借りて頑張っていたきたい。」